

練習問題 1

〔A〕 次の説明の「 」に当てはまる語を答えよ。

1 独立して働く、意味を持ったことばの最小単位を、「 」という。

2 体言を含む文節を修飾する語を、「 」語という。

3 自立語で活用し単独で述語になる語を、「 」言という。

4 付属語で活用する語を、「 」という。

5 付属語で活用しない語を、「 」という。

〔B〕 次の語を現代仮名遣いに直して平仮名で書け。

6 つかはす（遣はす）

1
「

2
「

3
「

4
「

5
「

6
「

「

「

「

「

「

「

7 せうと（兄人）

8 咲かなむ

9 ゆゑ（故）

1 0 あふせ（逢瀬）

〔C〕 次の文を「／」で文節に分けよ。

1 1 ある僧、人のもとへ行きけり。（宇治拾遺物語）

1 1 〳

1 2 丹波^{たんば}に出雲^{いづも}といふ所あり。（徒然草・二三六）

1 2 〳

7 〳

8 〳

9 〳

1 0 〳

〳

〳

〳

〳

〳

〳

[D] 次の文を「／」で単語に分けよ。

1 3 ほのかにうち光りて行くもをかし。(枕草子・二)

1 4 屋の内は暗き所なく光満ちたり。(竹取物語)

1 5 雨など降るもをかし。(枕草子・二)

1 5 へ

1 4 へ

1 3 へ

練習問題 2 活用判定(易)

〔A〕 次の傍線部の語の活用之行と種類を答えよ。

1 人怖ぢて、あへてそのわたりに行かず。(宇治拾遺物語)

1 〔 〕

2 神へ参るこそ本意なれと思ひて、山までは見ず。(徒然草・五二)

2 〔 〕

3 立ち帰る音す。(蜻蛉日記)

3 〔 〕

4 その前後に死ぬる者多く、(方丈記)

4 〔 〕

5 おのが身は、この国の人にもあらず。(竹取物語)

5 〔 〕

〔B〕 次の傍線部の活用之行と種類、基本形、活用形を答えよ

6 若き女三人うち群れて、内様へ行きけり。
みたり うちさま
(今昔物語集)

6 〳

〵

〵

7 添ひて二三町ばかり行けども、
(宇治拾遺物語)

7 〳

〵

〵

8 烽火を上ぐれども、
ほうくわ
(平家物語・烽火之沙汰)
ほうくわの さた

8 〳

〵

〵

9 尻をほうと蹴たれば、失せぬるなり。
(宇治拾遺物語)

9 〳

〵

〵

10 石を、はかなき筏に載せて率て来れど沈まず。
いかだ
(栄花物語)

10 〳

〵

〵

1 1 打ち割らんとすれど、たやすく割れず、（徒然草・五三）

1 1
〱

1 2 京にのぼり、宮仕へをもせよ。（大和物語）

1 2
〱

1 3 つひにはその毒の故に死ぬれども、（宇治拾遺物語）

1 3
〱

1 4 祈るしるしありて、風波立たず。（土佐日記）

1 4
〱

練習問題 3 活用判定(難)

次の例文の動詞をすべて文法的に説明せよ。また、活用表を完成させよ。

- ① 八月十五日ばかりの月に出で居て、かぐや姫いといたく泣き給ふ。
- ② 富士の峰かすかに見えて、上野・谷中の梢、またいつかはと心細し。
- ③ 老いては子に従へ。
- ④ なんとてかかる憂き目をば見るべき。
- ⑤ 「いづら（||どこへ行った?）、猫は。こち率て来。

⑥ 世にふりぬることをも、おのずから（||中にはひょっとして）聞きもらすあたり（||人）もあれば、

⑦ 白露の色はひとつを（||一つなのに）いかにして（||どうして）秋の木の葉をちぢに染むらむ

⑧ 夕べに寝ねて、朝におく。

⑨ 「観音火杭変成池はいかに」と札を書きて、大門の前に立つ。

複合動詞は、

- ③ ② ①

「―し、そして―する」と解せる時は、別々の二語
「―し、そして―する」と解せないときは、一語の複合動詞
本動詞＋補助動詞の時は、別々

							基本形
飽	恨	足	離	借	耐	閉	語幹
							未然形
							連用形
							終止形
							連体形
							已然形
							命令形
